

平成29年7月3日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 マナーズ
代表者 理事長 宅間 佳代子



1. 助成プロジェクト名

後輩のためにリフォームします。

2. 実施団体の概要

創始者であり、理事長の宅間夫妻は教会に集う世間からはみ出た不良仲間たちを集めて音楽の楽しさを教えていました。親からも見捨てられて、宅間家で寝泊まりする子も増えてきました。しかし、資金的に個人の能力を超え始めてきました。平成23年9月仲間とNPOを立ち上げ、自宅を解放しました。25年4月自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」が県の認可を受け、再出発しました。以後丸4年がたち、職員も6名、定員も6名となりました。

3. プロジェクトの目的とその背景

ホームも丸4年もたつと、卒業生も10人を超えました。それにつれ、ホームの部屋もだんだん荒れてきています。小さな傷から大きな穴まで、目立つようになってきました。布団を敷きっぱなしで畳をダメにして、和室を仕方なくフローリングで洋室風に変えました。またストレスからか壁に大きな穴を開け、どうしようもない心の重さを感じます。
隠れてタバコを吸っても臭いでわかるのに、壁クロスが黒ずんできています。

4. プロジェクトの内容

- ① 穴を開けられた2部屋の補修をする。
この穴を見るたびにスタッフにも言えず、いらだっていた措置児の顔が浮かびます。さぞくるしかつたのでしょう。
破損部分のみ下地を張り替え、後壁クロスを張る。
- ② 一昨年布団の敷きっぱなしで畳をダメにし、床のみフローリングにしました。まわりは土壁で和洋チグハグなので、洋室っぽく補修します。
天井はそのまま土壁の上にコンパネを張り、壁クロスで洋風にします。
- ③ 一人が長く同じ部屋にいと、たばこのヤニで壁、天井が汚れてしまっています。ここにも小さな穴が開いています。
壁クロスの張り替えします。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」「成果」「社会的変化」「効果」

「成果」 まずクロスを張り替えるだけで新居の感じがします。子たちも1週間は感謝していましたが、その後は慣れてしまって、掃除もしません。スタッフが頑張っけて掃除しています。でも今の子たちはたばこも吸わず落ち着いていますので、穴も開かずにいます。子たちが成長したのかな。

6. プロジェクトの実施にあたっての課題、今後の展望

根本的には29年度に6人の措置児はほしいです。定員6人ですが今は3人しかいません。ここ1年児童相談所から新規の紹介もありません。ホームとして努力して連れてくることはできません。児童相談所に頼るだけです。でも改装をし、職員も6名揃って、新規子たちを待っています。